

わくわく国際交流

深川国際交流協会 広報誌 Vol.18 2006.1

<http://fukakoku.net/>



▲ 青少年カナダ交流訪問団 新千歳空港



▲ 青少年カナダ交流訪問団 ブッチャードガーデン



▲ 青少年カナダ交流訪問団 ブッチャードガーデン



▲ 青少年カナダ交流訪問団 ヴィクトリア州会議事堂



▲ 青少年カナダ交流訪問団 メアリー前市長訪問



▲ 青少年カナダ交流訪問団 お別れパーティーに使用

深川国際交流協会が 10 周年を迎えます

深川国際交流協会は 1997 年の設立以来、会員の皆様の協力により活動を重ねてまいりました。この間、協会の中心事業として実施してきた「青少年カナダ交流訪問団派遣事業」は、これまでに 60 名を超える中、高校生をカナダに派遣して参りました。

当協会は 2007 年 3 月 27 日（平成 18 年度）に 10 周年を迎えます。つきましては、理事会を中心に 10 周年記念事業のありかたについて協議しており、次のような事業を次年度中に実施するため、部会を中心に検討することといたしました。

在住外国人との共生（交流）事業 ----- **国際理解部会**
深川に在住されている外国人や近隣市町村 A E T とともに実施する交流事業

会員相互交流を目的としたパーティー、記念式典----- **会員交流部会**
記念式典単独での実施はしない

パネル展、青少年カナダ派遣のあゆみ、10 年のあゆみ ----- **広報部会**
記念誌のような冊子の作成はしない

公式訪問団受入れ事業 ----- **受入れ交流部会**
次年度 7 月に来市される予定のアボツフォード市公式訪問団受入れに伴い、実施する協会プログラムの内容を検討

国際交流シンボルマークの募集 ----- **広報部会**
国際交流協会にちなんだ、シンボルマークの検討

カナダ派遣生徒へのアンケート、感想集約 ----- **海外派遣交流部会**
これまでにカナダに派遣となった生徒に対するアンケートやパーティーなどの検討

今後、各部会で次年度の事業計画も含め、3 月中旬くらいまでに実施内容や時期について協議することとしています。

10 周年に向けた、理事長からのメッセージをお届けいたしますのでご覧下さい。

異文化が共生できる時代へ

深川国際交流協会 理事長 小滝 聡

国際交流の目的は「異文化と共生する知恵を身につけること、そして、自分の文化を発信する力を身につけること」にあると考えます。20 世紀は、文化の衝突の時代でした。21 世紀こそ多文化共存の時代にしたいものです。そのためには、異文化を理解し、尊重し、さらに、自分の文化を学び、それを積極的に伝え、理解してもらう発信力を備えなければなりません。

数ヶ月前、ベトナムを訪れる機会がありました。ハノイや山岳地帯の観光地で何人かの青年達と話をすることがありました。彼らの生きいきとした目の輝き、何かを吸収したいという積極的な姿勢に心打たれました。気温 35 度にもなる熱気と、バイクの排気ガスの中、貧しくも希望に満ち溢れ、前向きに努力している姿は感動的でした。

先月、台湾で、おそらく 30 年ほど前の日本にもいたであろうと思われる、親切な人達に出会うことができました。台湾北部の九分という田舎の観光地で、全く面識のない私達を 30 キロも先の鉄道駅まで送ってくれた若い OL 風の女性、台北の市内で迷いそうになっているところを目的地まで連れて行ってくれた見知らぬ女性など、いずれも、感動的な異文化体験でした。「知らない人について行ってはダメ」と子どもに言い聞かせる国に住んでいる私にとっては「新鮮」でした。

一つの文化が他の文化を呑みもとうとする時代はもう終わりにしたいものです。どんな小さな文化にもかけがえのない、豊かな歴史の積み重ね、連綿と受け継がれてきた知恵があります。私達は、そのことを謙虚に学ぶ姿勢を誰もが持たなければなりません。

深川国際交流協会は今年度末に 10 周年を迎えます。これを期として、市民全体に国際理解が深まり、その輪が広がることを願っております。

インターナショナルデー開催

6月24日(金)、プラザホテル板倉にて、インターナショナルデーが開催されました。その様子を掲載します。

- 16:30 受付開始
 17:00 開始
 主催者挨拶： 国際交流協会理事長小瀧氏、
 国際ソロプチミスト深川会長轡田氏
 外国人紹介： ステージ上で簡単な自己紹介
 (出身地、プロフィールなどそれぞれ自己紹介)
 17:20 日本の不思議当てクイズ
 17:50 Word Game
 18:10 コーヒーブレイク
 18:25 発音・ゲーム
 18:45 ダンスタイム
 18:55 主催者お礼： 深川国際交流協会 国際理解部会長 中川氏
 19:00 終了



‘05 青少年カナダ交流訪問団報告

2005年7月25日から8月9日の行程で青少年海外派遣事業(青少年カナダ交流訪問団)が実施されました。

日程・メンバー紹介

月日	主な研修内容
7.25	▪ 出発～バンクーバー国際空港へ
7.26	▪ 英語の授業
7.27	▪ 英語の授業、カルタス湖見学
7.28	▪ 英語の授業
7.29	▪ 移動
7.30	▪ ビクトリア市内見学
7.31	▪ ホストファミリーと過ごそう
8.1	▪ "
8.2	▪ 英語の授業、ホワイトロック
8.3	▪ 英語の授業
8.4	▪ グランビルアイランド、公園散策
8.5	▪ 英語の授業、サンダーホースランク乗馬 ピクニック、お別れパーティー
8.6	▪ ホストファミリーと過ごそう
8.7	▪ "
8.8	▪ バンクーバー国際空港出発
8.9	▪ 帰国～深川へ

	星野 梓 (リーダー) 深川中学校3年		竹浦 真 (サブリーダー) 一已中学校1年
	佐伯 沙織 音江中学校3年		清水 美里 納内中学校3年
	馬場 千晴 深川中学校1年		藤岡 順子 (団長・引率) 深川国際交流協会 会員
	橋向 利勝 (副団長・引率) 深川国際交流協会 会員		



一時間ほど遅れて到着したバンクーバー空港には「welcome」と書かれた風船を持って、コーディネーター兼 ESL の先生ヴァーナが出迎えてくれました。その人懐こい顔を見たたんなんだかほっとし、空港の外に出ると今度はまた、真っ青な高～い空が私たち一行の不安をずいぶん吸い取ってくれる様でした。

毎日朝 8 時 15 分に学校に集まり、英語の授業です。中学生五人、それも 1 年生が二人ということでどうかと思っていた私の心配は、三日目になるともう杞憂だったことがわかりました。真剣な表情で英語を聞き取るうとし解ろうとする努力に感心。英語の授業以外にも楽しいプログ

ラムがたくさん用意されていました。バンクーバーアイランドでは急きょヴァーナが代金を交渉し、まけてもらい内海を小さな船で約一時間クルーズを楽しむことができました。

若い中学生から学ぶことがたくさんありました。何かを決めなくてはならない時、いつも自分たちで決めるように言っていたのですが、その都度上手に結論を出していましたし、何より、自分たちの状況を受け入れそれを楽しむという姿勢には本当に感心させられました。最後の週末の過ごし方も話し合いの結果、映画を観に行くことになりました。私は映像で楽しめるだろうと「皇帝ペンギン」を推したのですが多数決でやぶ

れ、結局「チャーリーとチョコレート工場」になりました。結果は私の予想に反し、一人も眠ることもなく（映画館の中の冷房がきつかった？）内容も結構理解出来ていたのにはびっくり、さすがです！

私たちが 15 日間過ごしたカナダという国は人種のモザイクと言われてきました。最近、人種の多様性に拍車がかかっている様子です。英語を母国とせずアボツフォードの ESL（英語教育）の対象者が使う言語は想像以上の数です。ほんの短い期間ですがそんな文化に触れた中学生達、違いを認める真の国際人をめざして欲しいものです。

CANADA ですごした最高の夏休み _____ 星野 梓（深川中学校 3 年）

私は、「海外で 2 週間生活をする。」という一生思い出に残るすごい経験をした事を、今になって実感した。カナダに着いてからは毎日が夢みたいで「いま私はカナダにいる。」と自覚するにはあまりにもアツという間の 16 日間だった。

初めての国際線でやっとカナダに着いてドキドキしながら見たカナダの風景はなんだか北海道とすごく似ていて、広大な土地には畑や牧場の馬と牛、農家の豪邸、それとどこに行っても水まきのスプリンクラーがあった。そして、生活していくうちに色々な事がわかった。まず何もかもが大きかった！飲み物は日本の倍で、ハンバーガーもすごく大きくて最初はキッズサイズを頼んでいたけれど、日に日にカナダサイズの食べ物に慣れて、最終的には普通サイズのバーガーを食べてもまだ余裕のある位にまで成長してて自分でもビックリした（笑）

そして、一番影響を受けたのは、カナディアン人の優しく暖かい心だった。街のどこに行ってもインド人や中国人などたくさんの人種を目にすることが多かった。日本ではめったにないし、見ず知らずの人と気軽にあいさつするのも考えられないこと。それだけカナダは人種差別が無

くて、人と人との関わりが深かった。

あと、街中のあちこちにカナダのメープルリーフのマークがついていてビックリした。例えばマクドナルドのマークやデニースのマークにまでカナダのマークがついていたり、人がカナダのマークのタトゥーをつけていて、とても愛国心が強いんだなと思った。

行く前は、はっきり言うとカナダについてほとんど知らなかった。しかしカナダに行くと色々体験したり、生活していくうちに想像以上の事がわかって、今ではカナダは第 2 の故郷です

「My second family」

私の大切なホストファミリーは、あまり家にいなくて残念だったけど、いつも優しく声をかけてくれたお父さんの Ken と、とても明るくて料理の上手なお母さん Diana に、お姉ちゃんの Dayna(18)、お兄ちゃんの Tyler(16)がいました。

お姉ちゃんの Dayna はとても背が高くアイスホッケーが得意。仕事も 2 つしていつも忙しいのに私の部屋の前を通る時は必ず「今日は楽しかった？」「アイスを食べない？」など話しかけてくれ、たまにお母さんの代わりに送り迎えもして

くれた。一緒に DVD を観たり話をして、Dayna といるとすごく楽しかった。

お兄ちゃんの Tyler は初めて見た時に、色んな意味でビックリした。

まず、カナダに行く前に知らされていた私のホストファミリーは「Tyle(女)」と書いてあったので、初めて会った時に「えっ!?女じゃないの!?」と思ったのと、その Tyler がなんと男で！金髪で、ものすごくかっこよくて頭が大混乱した（笑）Tyler はマクドナルドで働いていてあまり話せなかったけど、帰国前日に Tyler と男友達 3 人と私と千晴と美里とホストマザーでバンクーバーの遊園地に行ったのは本当に楽しかった。その他にも Diana には色々な所に連れていってもらった。まず、家の近くにある Mill Lake を散歩した。そして、ウォータースライダーの近くにある湖の Caltus Lale に 2 回も泳ぎに行くと、Mill Lake と Caltus Lale の 2 つの湖に計 6 回も行ったので、みんなからは「Lake マニア」呼ばれるようになった（笑）そして、連れていってもらった所で一番印象に残っているのは「バンクーバーの Fireworks に行くよ」と言われた時でした。

私が「えっ!?何!?」と困っている

と私が持っていた辞書で教えてくれて、「Fireworks = 花火」とわかり、しかもその花火大会は毎年2週間に渡り、世界の花火を打ち上げるといいうすごいスケールで、私とDianaとDaynaが行った日はChinaの花火の日でした。花火とバンクーバーの夜景が本当にキレイで良い思い出に残りました。

ホストマザーや家族には本当に迷惑を掛けてばかりでした。いきなり

2日目にバスルームに入って鍵をかけ、出ようとしたら開かなくなってしまって、大声で助けを求めてやっと助けに来てくれた惨劇(笑)や、日本料理を作ってそれが失敗してしまった事、それとあまりにも英語を理解出来なくて、家族にはゆっくりと話してもらったり、私の辞書で教えてくれたりと大変だったけど、こんな“経験”をしたことで毎日少しずつ自分が成長していき、ホストフ

ファミリーとの距離も縮まった気がします。

別れの時 - 。本当にもう別れるのが信じられなくて、涙をこらえられなかった。私は Birch 家に行けて本当に良かった!!

そしてまた必ず、第2の故郷カナダに行って今よりもっと成長した姿を見せたいと思います。

第2の故郷 CANADA

竹浦 真 (一已中学校 1年)

カナダ交流訪問団への参加が決まって、カナダでのホームステイについて「いいね!」などの言葉をかけられても、いまいち実感がわかずにいました。でも出発の日に近づくほど、胸が希望でいっぱいになりました。僕のホームステイ先であるアボツフォード市は、バンクーバーから約60kmほどはなれた、アメリカの国境の近くにある自然が美しく環境の素晴らしい所でした。

ホストファミリーとの対面の時、僕は緊張していました。たくさんのホストファミリーがいる中「どの人が僕のホストファミリーなんだろう?あの人こっちを見ている、あっ指さして近づいてきた。あの人かな?」とわくわくしていました。優しい笑顔で握手をしてくれたのは、ホストマザーのドナとファザーのボブでした。その出会いからカナダでの日々が心から楽しいと思えるようになるのにそんなに時間はかかりませんでした。

僕のホストファミリーは優しく、笑顔が絶えないオープンな家庭で、すぐうちとけることができ、僕の事を「MAKO!」と呼んで、家族の一員のように迎え入れてくれました。フ

ファミリーと一緒に生活する中で楽しかったことがたくさんありました。ファミリーは話をする時、ゆっくりと、わかりやすい英語を選んでくれて、僕からは単語とジェスチャーだけでも、なんとか理解してくれて本当に親切に接してくれました。ホストファミリーの飼っている愛犬、モカ、アーチと僕とボブで散歩したとき、いろんな話をしながら、一緒に歩いたことは良い思い出です。このカナダでの生活の中、いろいろな場所につれて行ってもらい、様々な初めての体験をすることができました。バッファローの肉でバーベキューをしたり、ブラムをとって食べたり、スケートボードに乗ったり乗馬したりすべてが新鮮で興奮と感動の毎日でした。とてもいい思い出ばかりで一生涯忘れることはできません。今も昨日のことのように思い出します。家族を大切に、一つ一つのふれあいも大切にしていることが強く伝わりました。

コーディネーター兼先生のヴァーナは友達のように接してくれたので緊張することなく話をたくさんしました。それはとてもうれしいことで、もっとがんばって話をしようという

気になりました。

今こうして振り返ってみると後から後から、様々な思い出がよみがえってきます。僕がこんなにカナダでの日々を楽しく過ごせたのは、すばらしいホストファミリー、ヴァーナ、訪問団の仲間と出会えたからだと思います。

16日間という短い期間でしたが価値観の変化や視野が広がり、なんだか自分が大きくなった気がしました。そして日本には体験できない思い出をたくさん作ることができました。

自分の考えを人に伝えることの大切さ、家族のあたたかさなど、本当に多くのことを学んだと思います。

この訪問団に参加させてもらったことを感謝し、このカナダ訪問を経験したことで、それまであたり前の存在だと思っていた家族の大切さ、人との出会いとふれあいの大切さを知りました。

そしてこれからも、もっとたくさんのことにチャレンジし、がんばりたいと思っています。もう一度いつの日か第2の故郷カナダの家族に会いに行きたいと思っています。

カナダで感じたこと。そしてこれから _____ 佐伯 沙織 (音江中学校 3年)

最初はとにかく外国に行って英語を使ってみたいという気持ちだけで応募して実現するとはあまり考えてはいなくて受かってからも実感があまりわかかったけど、どうにか忘れ物もなくカナダに着いたときはと

りあえずほっとした。

日本とは全く違うことは想像していたけど、日本と変わらないような所も発見できて、違う所と変わらない所と比べられていい勉強になった。でも文化はかなり違っていた。考え

方が日本とは違って当たり前のことが全然ちがうことで本当におどろいた。

ホストファミリーはいい人ばかりだった。

ホストマザーは私がいかに

いうとゆっくりと簡単な単語で説明してくれてちゃんとわかるまで教えてくれた。ホストファザーは色んなところで気を使ってくれて手伝ってくれたりした。お姉さんやお兄さん達もあまり話せなかったけどやさしかった。本当にみんな大好きです。もっとたくさん英語が話せるようになって今回は Thank you しか言えなかったけど、次はもっとちゃんと

自分の気持ちを伝えたいです。そしてたくさん会話して 16 日間ではわからなかったカナダのことをもっと知りたいです。コーディネーターのヴァーナも私達に最高の思い出が出来るようにいつも色々考えてくれていて、感謝してもしきれないくらいです。藤岡さんと橋向さんも研修中だけでなく、事前にも色々アドバイスをしてくれるなど本当に感謝し

ています。それに協力してくれた家族にも感謝しています。

今度は自分の力でまたカナダに行きたいです。それに今回行って終わりではなく、スローガンの Let 's get together のようにこの経験を生かして色々な国際交流に参加し色々なことをたくさん学びたいです。

いろいろあった Canada 交流 清水 美里 (納内中学校 3 年)

「Let 's get together」のスローガンで深川市青少年カナダ交流訪問団として、カナダへ行った。

行きの飛行機の中で、不安もあったけど、ワクワクした気持ちが強かった。

Canada に着いて、1 日目は英語がぜんぜん聞きとれなくてすごくたいへんだった。でも、私のホストファミリーは、優しく、理解してくれるまで何度も何度も繰り返してくれた。それがすごくうれしかった。でも不安もあり、ホストファミリーとは、あまり話しができなかった。これを質問しようと思っても、相手の答えがわからない。もしわかって、次になんて言えばいいかわからない。それを恐れ、話をかけてあげられなかった。それが今になってすごく後悔している。あのとき、しゃべっていたら、もっと楽しい交流に

なったかもしれないと、今はそう思う。

私のホストファミリーは、お父さんとお母さんと娘さんがいました。みんなけっこう優しく、すごくいい人でした。お父さんは、ちょっと時間を守ってくれないときもあるけど、良い人でした。お母さんは、ちょっと言い方がきついけど、笑いをとってくれたりして、すごくおもしろい人でした。娘さんは、かわいいけど、少しうるさいところや、しつこいところがすごくいやだった。でも、優しいところが多くすごく良い人でした。そんな良い人にかこまれ生活できた。それが幸せだと思う。

私がこの Canada 交流で一番楽しかったことは、ヴィクトリアでの旅行でした。みんなで日本語が話せるので安心してました。そこでは、いろんなことがあって、とまったホテル

にプールがあったのに水着がなかったので、T シャツ、短パンで入った。入っている途中にさおりがプールにおちてビックリした!そのあと、すごくたいへんだったけど、すごく楽しかった。

総合的には、最初から最後まで英語には、すごく苦労したけど、この Canada 交流は、一生忘れられないし、16 日間で、すごくたくさんの思い出をのこしてくれた。この Canada に来て、本当に本当によかったと思う。そして、またいつか Canada へ行きたい。そして、英語を覚えて、またホストファミリーにあって、「Thank you」そう言いたいです。

カナダ・・・ 馬場 千晴 (深川中学校 1 年)

私はカナダに行って強い印象を受けました。それは、カナダは日本とちがって、他の国の人がいっぱいてもみんな仲がよかったということ。私の行ったホームステイの近所の人にはインド人が多くてそれでもお互いふつうに接している所が日本とちがうと思いました。

ホームステイした家は、お父さんのジョナサン、お母さんのパトリシア、長女のアンジェリカ、次女のアレキサンドラ、末子のジェレミーの 5 人家族で私の家と同じ人数でした。みんなすごくやさしくて、アンジェリカはすごくカワイかった。アレキ

サンドラはすごくオモシロイ。末子のジェレミーは、悪ガキでいつもおこられている。でもみんなそれぞれ特徴があって、毎日が楽しい。

話している言葉がわからない時は、パソコンの翻訳機を使っていたので、ホームシックまでにはなりませんでした。(笑)

そんなこんなで休日は乗馬に連れてってくれたり、ジョナサンの兄弟の家に連れてってくれたりとすごくたのしかった。

2010 年にはバンクーバーで冬季オリンピックが行なわれると聞いて、「いいなー。オリンピックが間近で

見られるなんて。もっとカナダにいたいなー。」と思うほどカナダは楽しめました。

最終日はバスの中でまだいたいよねーとみんなでくり返し言っていました。

でもそう思っても、この 2 週間はすごく楽しかった夏休みだと思いました。

エピローグ

深川国際交流協会会員 橋向 利勝（副団長）

今でこそいくら落ち着いたけれど、ぼくにはすこし放浪癖がある。日常の生活を離れ「ここではないどこか」に身を置く、というのは何時でもぼくの心のどこかをざわざと落ち着かなくさせる。いつもの生活とは違う文化に触れ、見慣れない景色を見て食べ慣れないモノを食べ、翌日にはもう会うこともないだろう、というひととたわいのない話から、互いの夢や目標、などというマジメな話までしたりするその心地よさ。

ぼくにとって旅とは、普段から知らずにカラダに染み付かせている常識を破り捨て、いくらかでも自分の主体性を取り戻す行為かも知れない。

カナダ研修に参加した子供たちにとって、この二週間の旅はどうだっただろう。

英語の初学者である中学生を引率

する立場として今回の研修を振り返ると、カナダという国のふところの深さを感じる。授業はかなり内容が濃く実用的で、少人数ということも手伝い積極的な参加が求められるが、みんなを引きつける様々な仕掛けが用意されていて何より楽しい。ホストファミリーを含め子供たちに接する機会があった大人たちは、例えば初めて会った時でも「どこから来たの」「カナダは楽しい？」などと笑顔で接してくれるし、私たちの受け入れに対しても気負いを感じさせない。

引率としては、全団員とも病気もケガもなく、大きな問題もなく研修を終えられただけで十分だ。みんなそれぞれカナダでの二週間を楽しんでいたようで、それについては今回の報告の中から感じて頂きたい。

まあ欲を言えば、自主性がもうち

よっとあれば良かったかな、とは思う。みんな口を揃えて「またカナダに行きたい」とは言うけれど、飛行機の搭乗口ひとつ自分で探さず、ただゾロゾロとワタシら引率にくっついて行くだけでは、いつになってもカナダに行けません。

今回の研修にあたり、このような引率の機会を与えて頂いた国際交流協会・市役所等の関係各位に感謝します。なかなか得がたい経験をさせて頂きました。それに団長の藤岡さんには通訳を全面的にお願いするなどご苦労をかけました。ありがとうございました。

そして何より一緒にカナダに行った団員5名に礼を言いたい。楽しい研修をさせてもらった。

またカナダ行こうな。

日本語指導者養成講座 開催される

外国人に日本語を教えるための指導者養成講座の上級編を8月19日から10月3日までの毎週月曜日（9月19日を除く、全5回）開催いたしました。

講師には旭川国際交流委員会委員をされている影島裕見子さんをお迎えして実施いたしました。

内容は平成15年に実施いたしました講座のステップアップ編とし、「自動詞や他動詞」、「尊敬語や謙譲語」など希望者の意見も取り入れながら実施して頂きました。【受講者8名】



高校生の交換留学制度について



▲ 深川市長を表敬訪問

平成10年に姉妹都市提携したカナダ・アボツフォード市と深川市では、平成14年度から高校生の交換留学を開始し、3回目となる今回は、9月11日～11月5日までの8週間、アボツフォード市の高校生1人を受け入れ、11月5日～12月29日までの8週間、深川市から1人の高校生を派遣いたしました。

氏名	学 校	学年
高木 泉	北海道立深川西高等学校	1年
リンゼー・クロス	part べイマン セカダリー スクール	1年



↑ '05 インターナショナルデー 発音ゲーム



↑ '05 インターナショナルデー マツケンサンバ



↑ '交換留学生 社行会



↑ '交換留学生 社行会

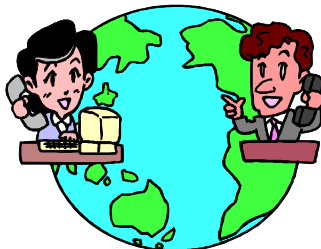
募集しています！

- ☺ 「ホストファミリー」 …………… 現在 42 家族の方が登録されています。
- ☺ 「通訳・翻訳ボランティア」 …… 現在 27 名の方が登録されています。
- ☺ 「深川国際交流協会会員」 …… 現在、一般会員 95 名、学生会員 15 名、賛助会員 43 団体です。



【問い合わせ先】深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

世界に発信する深川地球市民



<http://fukakoku.net/>

【広報誌発行責任者】谷口保幸（広報部会部会長）
 【広報誌編集担当】深川国際交流協会 広報部会
 編集長：南部雄二 副編集長：橋本 信
 編集委員：池田敏江・稲田伸人・今井敏雄・上垣由紀子・北本清貴・小橋厚子・鈴木美彦・高橋昇
 寺下良一・橋向利勝・三ツ井隆博